

第72回「社会を明るくする運動」 調布市意見発表会 意見発表文

学校名	神代中学校
代表者氏名	山本 爽太 (やまもと そうた)
学年	2年
題名	犯罪や非行「個性」を広げていくために
本文	
<p>非行や犯罪は私たちの住む現代社会では、数多く存在している。特に若者の間では誹謗中傷、いじめなど社会問題化している。実際に厚生労働省の小中高生の自殺者数のデータは、近年増加傾向が続いている。また、令和二年に過去最多となり、令和三年は過去二番に多い状況になった。それらを減らしよりよい社会を築き上げていくためには他人とは違った自分だけの性格、特技などの「個性」を豊かにしていくべきだと思う。しかし、今の若者はそういう「個性」をもつ意識が低いように感じる。</p> <p>実際のデータでも内閣府が今年、日本、韓国、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、スウェーデンの七カ国の若者を対象に「自分自身に満足しているか」というアンケート調査を行った。そのうち、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた人の数は七カ国で日本が最も少ないという結果になった。さらに、「自分には長所があるか」という質問に対しても「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた人は同じ七カ国で一</p>	

番少ない結果となり、前年の二〇二一年も同様の結果になった。これらの統計結果を見ても、現代の日本の若者は諸外国と比べると「個性」を持つ意識が低いと考えられる。私は、その背景に日本の社会に於いては、集団のなかで異質なものを排除することが一つの要因なのではないかと考える。

以前、合唱練習をしているとき、私は男声のパートを務めていた。実際はアルトパートが得意だった。他とは違った独特の音程を出すことが得意だった。そのため、私はどうしてもアルトパートを歌いたかった。しかし、クラス全体でこれ以上パート異動はしない方がいいという空気感があった。異動を希望すると周囲から冷遇されると思い、本来の希望は叶わなかった。その後、周りに合わせて歌い続けることしかできず、思い通りにはいかないままになってしまった。こうした「同調圧力」は周囲の人すべてが異質なことを否定することでおこってしまうことだ。異質なものを避け続けていると、組織そのものが単調なものになってしまうことを考えられる。異なる考えも受け入れることで、「個性」ある組織へ変わりゆくことができる。

友人がとある発表会で歌を歌うことがあった。その歌は僕自身とても響きわたるいい声だと感じていた。ところが、友人が歌詞を間違え同じところをリピートしてしまった。その場では何事もなかったかのようにことが進んだ。その後、発表が終わると拍手と同時にその子の周りに多くの友達が集まった。なにか楽しそうな話をしているように感じられた。だが、

「さっきのミスださいなー」

といった無神経な発言が周りの子から聞こえた。失敗してしまった友人がなぜそこまで言われたいいけないのかと私はとても違和感があった。友人はそこでは笑って過ごしていたが、みんなが友人のもとから離れていくと悲しそうな顔を浮かべた。それ以降、その友人は歌や音楽に対する関心が薄れていき、歌うことに対しても抵抗感をもつようになってしまった。

私は他人の失敗を揶揄する行為は間違っていると考える。そうではなく、ミスや過ちを素直に受け入れる寛容さが必要だと感じた。

同じ人間が起こした三三〇件の災害のうち、一件は重い災害があったとすると、二十九件の軽傷、傷害のない事故を三〇〇件起こしている。つまり、重大なミスの一つ起こすまでに小さいミスが三〇〇回起こっているということだ。これは「ハイニリツヒの法則」で指摘されていることだが、一つ小さなミスを改善していけばミスは起こりづらくなる。だからこそ人が間違いを起こすことを受け入れられ、それを改善できる環境をつくることができれば、大きな間違いを事前に防ぐことが可能になると私は考える。

「個性」に関して外国だとおもしろいイベントが進んでいる。例えばアメリカのハリウッドでは、コンサート会や男女のみならず男子同士、女子同士でペアをくみ、それぞれのペアの特徴を表に出すLGBTのイベントなどがある。台湾でもアジア一位といわれるほどのLGBTパレードというイベントが

ある。これにならい、日本でもこのように「個性」を他人の目を気にせずに公に出せる機会をさらに増やせるのではないかと思う。

人はそれぞれ自分の「持ち味」をもっている。思考や価値観もそれぞれ違う。心や体がひとりひとり異なるのと同様に、他者の「個性」を認め合うことが必要である。

非行や犯罪を減らすためには、罰則という形に限らず、社会全体で受容する仕組みや体制が必要になってくる。他者が異なる人格をそれぞれ持っていることを再度認識することで、人は「異質」を受け入れることができるようになる。そしてお互いがそれぞれの「個性」を認め合うことができる。以上のことを踏まえて今後、私は他人の「個性」を受け入れるためにも失敗に対して寛容になりたい。そうすることで社会全体が明るくなっていくと思う。